



卒業生からのメッセージ



10月20日(土)の学校見学会のために来校した3人の卒業生に話を聞きましたので紹介します。

吉元美和さん(隼人中学校出身, 鹿児島大学法文学部人文学科1年生)



国分高校に進学したきっかけは、勉強と部活動の両立ができる高校だからです。私は中学校でハンドボールをしていたので高校でも続けたいと思いました。

国分高校でよかったことは、やはり、勉強も部活動も思いっきり打ち込めたことです。部活動では朝課外があるため、他校のように朝練はできませんでしたが、昼休みに体育館を使わせていただいて練習し、県総体で優勝、インターハイに出場できたことがよい思い出です。高校では寝る前に暗記して、朝起きてから確認をしていました。

大学では、他の大学生とフィリピンに行きました。貧富の差が激しく、学校に行けない子どもたちから「お金ちょうだい」と言われて、いかに自分が恵まれているかということを実感しました。私は理系に自信がなくて、文系に行きましたが、今は建築に興味があります。今、理系に進んでいたら違っていたかとも思います。自分の可能性を狭めず、いろいろなことに挑戦することが将来につながっていくと思います。



野元友樹君(国分中学校出身, 鹿児島大学工学部化学生命工学科1年生)



国分高校に進学したきっかけは、理数科に進んで課題研究をしたいと思ったからです。放課後も遅くまで課題研究に打ち込む中で、友達との絆が深まり本当によかったです。部活動は空手道でした。クラスマッチのサッカーで、PKで負けましたが、いい思い出です。高校時代は、わからないところはすぐに先生に質問し、部屋に携帯を置かずに頑張りました。

大学ではいろいろなところから集まっていて友人関係が広がり、充実しています。

目標を決めたら、まわりに流されず、自分で考えて努力することが大切です。今は目標がなくても、努力を続ければ高校で見つけることができると思います。



鈴木芹菜さん(舞鶴中学校出身, 鹿児島大学工学部建築学科1年生)



国分高校に進学したきっかけは、勉強と部活動を両立して充実した高校生活を送りたいと思ったからです。高校時代の勉強と部活動を通して、努力することの大切さを学べて本当によかったと思います。3年生のときの行事(文化祭・体育祭・クラスマッチ)が特に盛り上がりました。バスケットボール部を引退していたのに、クラスマッチで優勝できたのが自慢です。

大学の夏休みに東京に旅行して、今建築中の国立競技場など、興味のある建築物を見たことが印象に残っています。勉強で心がけたことは、わからないことはすぐに質問すること、できるだけ学校で勉強すること、夜眠いときは寝て、朝早く起きて勉強することでした。

自分の人生の中で、そのときにしかできないことがあるので、ためらわずにやってみることが大切だと思います。迷ったらやってみるという気持ちで頑張っていると道が開けると思います。



